

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-166774

(P2017-166774A)

(43) 公開日 平成29年9月21日(2017.9.21)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
F 2 4 C 3/00 (2006.01)	F 2 4 C 3/00 L	
F 2 4 C 15/14 (2006.01)	F 2 4 C 15/14 G	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願2016-53954 (P2016-53954)
 (22) 出願日 平成28年3月17日 (2016.3.17)

(71) 出願人 000112015
 株式会社パロマ
 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号
 (74) 代理人 100104178
 弁理士 山本 尚
 (74) 代理人 100174344
 弁理士 安井 雅俊
 (72) 発明者 鈴木 浩之
 名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 株式会社パロマ内

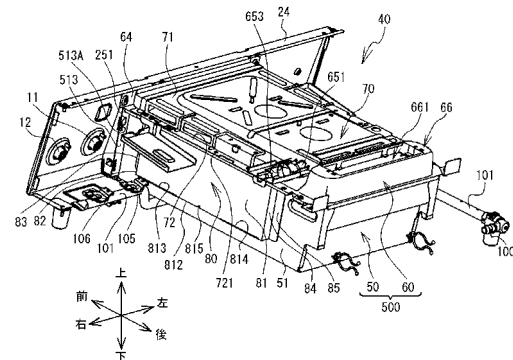
(54) 【発明の名称】 コンロ

(57) 【要約】

【課題】 煮汁が筐体内に侵入したとしても、当該煮汁がガス配管に滴下するのを防止できるコンロを提供する。

【解決手段】 天板のバーナ開口部を通じて筐体内に侵入した煮汁のうち、グリル庫500の側部方向に流動した煮汁は、グリル庫500の右壁部51に取り付けられたダクト部80の縦壁部81を伝って下方に流れ落ちる。ガス配管101に向けて縦壁部81を伝わり落ちる煮汁は、縦壁部81の下端部812において、ガス配管101が配設された配設領域と上下に重なる位置に設けられた折り返し部813により受け止められる。これにより、ガス配管101上に煮汁が直接かかり腐食等が生じるのを防止できる。また、縦壁部81において、ガス配管101が配設されていない非配設領域と上下に重なる位置に切欠き部815を設けることにより、煮汁を非配設領域に積極的に滴下させることができる。

【選択図】 図9



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筐体と、
前記筐体内に設置されるグリル庫と、
前記筐体の上部に取り付けられる天板と、
火炎が形成される炎孔部を有する本体部を備え、該本体部が前記天板に設けられるバーナ開口部を上下に挿通するように設けられるコンロバーナと
を備え、
前記筐体内には、ガスが流れるガス配管が配設される配設領域と、前記ガス配管が配設されない非配設領域とが夫々形成され、
前記グリル庫の左右の両側部には、上下方向に延びる縦壁部が夫々設けられ、
前記縦壁部の直線状に延びる下端部において、
前記配設領域と上下に重なる部分には、上方に折り返された折り返し部が設けられ、前記非配設領域と上下に重なる部分には、下方に突出する突起部、又は切欠き状に形成された切欠き部が設けられていること
を特徴とするコンロ。

10

【請求項 2】

前記両側部は、前記グリル庫の左右一对の側壁であって、
前記一对の側壁の夫々には、
燃焼用の二次空気を前記グリル庫内に取り入れる為の空気孔と、
前記空気孔を外側から覆うと共に、前記二次空気を取り入れる開口部を下側に形成し、
該開口部から取り入れた前記二次空気を前記空気孔に案内する為のダクト部と
が設けられ、
前記ダクト部は、
前記側壁に対して隙間を空けて対向する位置に配置された前記縦壁部を備え、
前記縦壁部の前記下端部において、
前記突起部又は前記切欠き部は、前記下端部の長手方向の中央部に設けられ、
前記折り返し部は、前記中央部を挟む前後の位置に夫々に設けられていること
を特徴とする請求項 1 に記載のコンロ。

20

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本発明は、コンロに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、筐体と、筐体内に設けられるグリル庫と、グリル庫の左右に固定されるバーナ取付台に支持されるコンロバーナと、筐体上部に装着され、所要位置に穿設されたバーナ開口部からコンロバーナのバーナ本体部を上下に挿通させるようにして、バーナ本体部の上部を外部に露出させる天板等を備えたコンロが広く提供されている（例えば、特許文献 1 参照）。

40

【0003】

このようなコンロの多くは、筐体の前部に、グリル及びコンロバーナへのガス供給量を調整する複数のガス量調節装置が設けられている。筐体の後部には、ガスホースと接合する接続具が設けられている。接続具にはガス配管が接続されている。ガス配管は、夫々のガス量調節装置に直接的に接続されている。これにより、各ガス量調節装置を通じてコンロバーナ、及びグリル庫内のグリルバーナにガスが供給される。ガス配管は、グリル庫の配設位置に対応して下方向に屈曲するように形成されており、グリル庫の配設位置においては、グリル庫の下側を潜り抜けるように配設されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

50

【0004】

【特許文献1】特開2014-54466号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記コンロにおいては、天板上に煮汁がこぼれると、当該煮汁が天板に設けられたバーナ開口部を通じて筐体内に侵入することがある。こうした煮汁がグリル庫上に流れ、グリル庫の側面を伝って流れ落ちた場合、グリル庫の下側を潜り抜けるガス配管に滴下し、当該ガス配管の腐食、破損の要因になる可能性があった。

【0006】

本発明の目的は、煮汁が筐体内に侵入したとしても、当該煮汁がガス配管に滴下するのを防止できるコンロを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1に係る発明のコンロは、筐体と、前記筐体内に設置されるグリル庫と、前記筐体の上部に取り付けられる天板と、火炎が形成される炎孔部を有する本体部を備え、該本体部が前記天板に設けられるバーナ開口部を上下に挿通するように設けられるコンロバーナとを備え、前記筐体内には、ガスが流れるガス配管が配設される配設領域と、前記ガス配管が配設されない非配設領域とが夫々形成され、前記グリル庫の左右の両側部には、上下方向に延びる縦壁部が夫々設けられ、前記縦壁部の直線状に延びる下端部において、前記配設領域と上下に重なる部分には、上方に折り返された折り返し部が設けられ、前記非配設領域と上下に重なる部分には、下方に突出する突起部、又は切欠き状に形成された切欠き部が設けられていることを特徴とする。

【0008】

請求項2に係る発明のコンロは、請求項1に記載の構成に加え、前記両側部は、前記グリル庫の左右一対の側壁であって、前記一対の側壁の夫々には、燃焼用の二次空気を前記グリル庫内に取り入れる為の空気孔と、前記空気孔を外側から覆うと共に、前記二次空気を取り入れる開口部を下側に形成し、該開口部から取り入れた前記二次空気を前記空気孔に案内する為のダクト部とが設けられ、前記ダクト部は、前記側壁に対して隙間を空けて対向する位置に配置された前記縦壁部を備え、前記縦壁部の前記下端部において、前記突起部又は前記切欠き部は、前記下端部の長手方向の中央部に設けられ、前記折り返し部は、前記中央部を挟む前後の位置に夫々に設けられていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

請求項1に係る発明のコンロでは、天板のバーナ開口部を通じて筐体内に侵入した煮汁のうち、グリルの側部方向に流動した煮汁は、縦壁部を伝って下方に流れ落ちる。ここで、流れ落ちた煮汁のうちガス配管に向けて伝わり落ちる煮汁は、縦壁部の下端において、配設領域と上下に重なる位置に設けられた折り返し部により受け止められる。これにより、ガス配管上に煮汁が直接かかり腐食等が生じるのを防止できる。また、縦壁部において、非配設領域と上下に重なる位置に突起部又は切欠き部を設けることにより、煮汁を非配設領域に積極的に滴下させることができる。これにより、煮汁が折り返し部からオーバーフローしてガス配管にかかるのを防止できる。

【0010】

請求項2に係る発明のコンロでは、請求項1に記載の効果に加え、ダクト部の縦壁部の下端部は、中央部において対称形状にできるので、左右一対の側壁に夫々設けられる二つのダクト部を共通化できる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】コンロ1の斜視図である。

【図2】図1に示すI-I線矢視方向断面図である。

10

20

30

40

50

【図 3】天板を省略したコンロ 1 の斜視図である。

【図 4】グリルユニット 40 の分解斜視図である。

【図 5】ユニット本体部 50 の斜視図である。

【図 6】ダクト部 80 の右側面図である。

【図 7】ダクト部 80 の正面図である。

【図 8】ダクト部 80 の平面図である。

【図 9】前板部 24 に固定されたグリルユニット 40 の右後方から見た斜視図である。

【図 10】ダクト部 80 1（変形例）の右側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0012】

10

以下、本発明の実施形態について、図面を参照して説明する。以下に記載されている装置の構造などは、特定の記載がない限り、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられるものである。以下説明は、図中に矢印で示す左右、前後、上下を使用する。

【0013】

図 1～図 3 を参照して、コンロ 1 の外観構造を説明する。図 1、図 2 に示すように、コンロ 1 は、グリル付きテーブルコンロである。コンロ 1 は、筐体 2 と天板 3 を備える。筐体 2 は、上部が開口する略直方体状に形成されている。天板 3 は、平面視略矩形状に形成され、筐体 2 の開口する上部にネジ（図示略）で固定されている。天板 3 の種類は限定しないが、例えばホーロー素材等を採用できる。天板 3 の右側には、バーナ開口部 201 が設けられ、左側には、バーナ開口部 202 が設けられている。それらバーナ開口部 201、202 の夫々の内側を上下に挿通するように、右コンロバーナ 5 と左コンロバーナ 6 が設けられている。天板 3 の左右方向の中央部の後端側には、排気口部 9 が設けられている。排気口部 9 は、平面視左右方向に長い略矩形状に形成されている。排気口部 9 は、筐体 2 内に設置されたグリル庫 500（図 2 参照）内の燃焼によって生じた燃焼ガスを、外部に排出する。排気口部 9 には、複数のスリット 191 を備える安全カバー 190 が上側から装着されている。

20

【0014】

図 3 に示すように、筐体 2 は、筐体 2 は、筐体本体部 20、前板部 24 の二つの板金部材を互いに組み付け、ネジ（図示略）で固定することによって構成されている。筐体本体部 20 は、前側が開口する平面視略 U 字形状に形成されている。筐体本体部 20 は、右側板部 21、左側板部 22、後板部 23 を備える。後板部 23 は、右側板部 21 及び左側板部 22 の夫々の後端部同士を繋いでいる。そのような筐体本体部 20 の開口する前側に、正面視略矩形状の前板部 24 がネジで組み付けられている。

30

【0015】

前板部 24 の左右方向の中央部には、グリル用の開口部 25（図 2 参照）が設けられている。開口部 25 の左右両縁部の夫々の上部には、後方に突出する係止爪 251（図 9 参照、図 9 では右縁部に設けられた係止爪 251 のみ図示）が設けられている。これら左右一対の係止爪 251 には、後述するユニット本体部 50 の右側面部 513 及び左側面部 523 に設けられたスリット 513A、523A（図 5、図 9 参照）が係止される。さらに、開口部 25 の上縁部にも、後方に突出する左右一対の係止爪（図示略）が設けられている。これら一対の係止爪には、後述するグリルフード 60 の上縁部 64 に設けられた一対のスリット 641、642（図 4 参照）が係止される。これにより、前板部 24 に対してグリル庫 500 の前側部が固定され、開口部 25 の内側には、グリル庫 500 の前側に設けられたグリル開口 501（図 2 参照）が配置される。開口部 25 には、グリル扉 10 が前後方向に移動可能に設けられている。ユーザがグリル扉 10 を手前側に引き出すと、グリル扉 10 の背面下部に連結した受皿 4（図 2 参照）と焼き網（図示略）を、グリル庫 500 内から同時に取り出すことができる。

40

【0016】

前板部 24 の前面において、グリル扉 10 の右側には、ツマミ 11、12 が設けられて

50

いる。グリル扉 10 の左側には、ツマミ 13 が設けられている。ツマミ 11 ～ 13 は押し回し式である。ツマミ 11 は、右コンロバーナ 5 を点火する場合に、正面視反時計回りに約 90°押し回しされる。点火後は、時計回りに回動させることによって、火力が大火力から小火力に調節される。ツマミ 11 を点火前の位置に戻すと、右コンロバーナ 5 が消火される。なお、ツマミ 12 と 13 の操作方法は、ツマミ 11 と同じである。ツマミ 12 は、グリル庫 500 内に設置されるグリルバーナ 65 (図 2 参照) を点火する場合に押し回しされる。ツマミ 13 は、左コンロバーナ 6 を点火する為に押し回しされる。ツマミ 13 の左側には、電池ボックス 15 が設けられている。電池ボックス 15 は、コンロ 1 に電源を供給する乾電池 (図示略) を格納する。なお、ツマミ 11 ～ 13 は、押し込み式のスイッチ等であってもよい。

10

【0017】

図 2 ～ 図 5 を参照し、筐体 2 の内部構造を説明する。筐体 2 の内側における略中央部には、グリルユニット 40 が設置されている (図 2, 図 3 参照)。図 2, 図 4 に示すように、グリルユニット 40 は、下から順に、グリル庫 500 と遮熱板 70 を備える。グリル庫 500 は、下から順に、ユニット本体部 50 とグリルフード 60 を備える。ユニット本体部 50 は、上面が開口する断面略 U 字状の箱型に形成され、被調理物を加熱する加熱空間を形成する。グリルフード 60 は、ユニット本体部 50 の開口する上部を塞ぐようにネジ 91, 92 (図 4 参照) で固定される。グリルフード 60 は、グリルバーナ 65 を備える。遮熱板 70 は、グリルフード 60 の上面を覆うように隙間を空けて支持され、グリルバーナ 65 から伝わる熱を遮断する。これにより、天板 3 の温度が過度に上昇するのを防止する。なお、ユニット本体部 50、グリルフード 60、及び遮熱板 70 の各構造については後述する。

20

【0018】

図 3 に示すように、遮熱板 70 の上面の右端側と、筐体 2 の右側板部 21 の上端部との間には、バーナ取付台 26 が略水平に渡設されている。バーナ取付台 26 には、右コンロバーナ 5 が取り付けられている。右コンロバーナ 5 は、バーナ本体部 151 とスロート部 152 を備える。バーナ本体部 151 は、円環状のバーナキャップ 154 が上部に載置されることで、外周面に複数の炎孔部を形成する。スロート部 152 は、バーナ本体部 151 の側面の前側下部に接続し、前方向に延びる。スロート部 152 の前端部には、ガスを流入させる流入口 153 が設けられている。流入口 153 は、後述するガス量調節装置 18 のノズル 18A に対向して配置されている。スロート部 152 は、ノズル 18A から噴出されるガスと、ガスの噴出により引き込まれる筐体 2 内の空気をスロート部 152 内で混合し、バーナ本体部 151 に供給する。

30

【0019】

他方、遮熱板 70 の上面の左端側と、筐体 2 の左側板部 22 の上端部との間には、バーナ取付台 27 が略水平に渡設されている。バーナ取付台 27 には、左コンロバーナ 6 が取り付けられている。左コンロバーナ 6 は、バーナ本体部 161 とスロート部 162 を備える。バーナ本体部 161 は、円環状のバーナキャップ 164 が上部に載置されることで、外周面に複数の炎孔部を形成する。スロート部 162 は、バーナ本体部 161 の側面の前側下部に接続し、前方向に延びる。スロート部 162 の前端部には、ガスを流入させる流入口 163 が設けられる。流入口 163 は、後述するガス量調節装置 19 のノズル 19A に対向して配置されている。スロート部 162 は、ノズル 19A から噴出されるガスと、ガスの噴出により引き込まれる筐体 2 内の空気をスロート部 162 内で混合し、バーナ本体部 161 に供給する。

40

【0020】

前板部 24 の背面側において、ツマミ 11 に対応する位置には、右コンロバーナ 5 用のガス量調節装置 18 が設けられている。ガス量調節装置 18 は、ガス量調節装置 18 はノズル 18A を備える。ノズル 18A は後方に突出し、右コンロバーナ 5 のスロート部 152 の流入口 153 に向けてガスを噴出する。ガス量調節装置 18 はツマミ 11 と接続し、ツマミ 11 の回動量に応じてノズル 18A から噴出するガス量を調節する。

50

【0021】

前板部24の背面側において、ツマミ13に対応する位置には、左コンロバーナ6用のガス量調節装置19が設けられている。ガス量調節装置19はノズル19Aを備える。ノズル19Aは後方に突出し、左コンロバーナ6のスロート部162の流入口163に向けてガスを噴出する。ガス量調節装置19はツマミ13と接続し、ツマミ13の回動量に応じてノズル19Aから噴出するガス量を調節する。

【0022】

前板部24の背面側において、ツマミ12に対応する位置には、グリルバーナ65用のグリル用ガス量調節装置（図示略）が設けられている。グリル用ガス量調節装置のガス出口には、ガス配管28の上流側端部が接続されている。ガス配管28は後方に延び、後述するバーナ取付台26の下方を潜って上方に折り返し、さらにグリルバーナ65のスロート部651と略同一高さ位置で左方に屈曲して左方に延びている。ガス配管28の下流側端部には、ノズル（図示略）が設けられている。該ノズルは左方に突出し、グリルバーナ65のスロート部651の流入口653に向けてガスを噴出する。グリル用ガス量調節装置はツマミ12と接続し、ツマミ12の回動量に応じてノズルから噴出するガス量を調節する。

【0023】

図4、図5を参照し、ユニット本体部50の構造を説明する。ユニット本体部50は、右壁部51、左壁部52、底壁部53、背壁部54等を備える。

【0024】

図5に示すように、右壁部51は、右側面視略矩形状に形成されている。右壁部51の略中央部には、凹部514が設けられている。凹部514は、左側方に向けて凹状に形成され、且つ右側面視前後方向に長い略矩形状に形成されている。凹部514の内側における上端部近傍には、燃焼用二次空気導入用の3つの空気孔515が前後方向に並んで設けられている。空気孔515は前後方向に延びる略直線状の細孔であり、燃焼用二次空気をグリル庫500内に取り入れる。なお、空気孔515は細孔以外の形状でもよく、又は孔を集合させた開口部でもよい。このような右壁部51を外側から覆うようにして、ダクト部80が取り付けられる。ダクト部80は、右壁部51の凹部514との間に、燃焼用二次空気を取り入れるための通路を形成する。

【0025】

右壁部51の前端部には、右側面部513が設けられている。右側面部513は、右壁部51の前端部から右側方に突出する正面視略矩形状の板部であって、面方向が前後方向に向くように配置されている。右側面部513の上部には、スリット513Aが設けられている。スリット513Aは、上下方向に延びる細孔である。スリット513Aは、前板部24の開口部25における右縁部の上部に設けられた係止爪251（図9参照）に係止される。

【0026】

右壁部51の上端部には、上面部511が設けられている。上面部511は、右壁部51の上端部から右側方に突出する平面視略帯状の板部であって、面方向が上下方向に向くように配置されている。上面部511の前後方向の略中央部位には、凹状に形成された載置面512が設けられている。載置面512には、ダクト部80の後述する上側固定部86が載置される。載置面512の前側には、上下方向に貫通する略矩形状の貫通孔512Aが設けられ、後ろ側には、上下方向に貫通する略矩形状の貫通孔512Bが設けられている。さらに、貫通孔512Aと512Bの間で、且つ貫通孔512B寄りには、円形状の固定孔512Cが設けられている。

【0027】

左壁部52は、左側面視略形状に形成されている。左壁部52の略中央部には、凹部524が設けられている。凹部524は、右側方に向けて凹状に形成され、且つ左側面視前後方向に長い略矩形状に形成されている。凹部524の内側における上端部近傍には、燃焼用二次空気導入用の3つの空気孔525が前後方向に並んで設けられている。空気孔5

10

20

30

40

50

25は前後方向に延びる略直線状の細孔である。なお、空気孔525は細孔以外の形状でもよく、又は孔を集合させた開口部でもよい。このような左壁部52を外側から覆うようにして、右壁部51側と同様に、他方のダクト部80が取り付けられる。ダクト部80は、左壁部52の凹部524との間に、燃焼用二次空気を取り入れる為の通路を形成する。

【0028】

左壁部52の前端部には、左側面部523が設けられている。左側面部523は、左壁部52の前端部から左側方に突出する正面視略矩形状の板部であって、面方向が前後方向に向くように配置されている。左側面部523の上部には、スリット523Aが設けられている。スリット523Aは、上下方向に延びる細孔である。スリット523Aは、前板部24の開口部25の左縁部の上部に設けられた係止爪（図示略）に係止される。

10

【0029】

左壁部52の上端部には、上面部521が設けられている。上面部521は、左壁部52の上端部から左側方に突出する平面視略帯状の板部であって、面方向が上下方向に向くように配置されている。上面部521の前後方向の略中央部位には、凹状に形成された載置面522が設けられている。載置面522には、ダクト部80の後述する上側固定部86が載置される。載置面522の前側には、上下方向に貫通する略矩形状の貫通孔522Aが設けられ、後ろ側には、上下方向に貫通する略矩形状の貫通孔522Bが設けられている。さらに、貫通孔522Aと522Bの間で、且つ貫通孔522B寄りには、円形状の固定孔522Cが設けられている。

20

【0030】

なお、ダクト部80は、右壁部51と左壁部52の夫々の外面との間に隙間を形成することで、グリルバーナ65の燃焼によって温度が上昇する右壁部51と左壁部52から熱を伝わり難くすることもできる。ダクト部80の構造については後述する。

【0031】

図4を参照し、グリルフード60の構造を説明する。グリルフード60は、平面視略矩形状の板状に形成されている。グリルフード60は、フード本体部61、右縁部62、左縁部63、上縁部64、排気筒66等を備える。フード本体部61は、平面視略矩形状に形成されている。フード本体部61には、グリルバーナ65が設けられている。グリルバーナ65は、スロート部651と燃焼部652（図2参照）を備える。

30

【0032】

燃焼部652は、フード本体部61の下面に設けられ、下方に向けて火炎を形成する多数の炎孔部を備える。スロート部651は、燃焼部652の後端部から右方向に延びる（図3参照）。スロート部651の右端部には、ガスを流入させる流入口653が設けられている。流入口653は、ガス配管28の下流側端部に設けられたノズル（図示略）と対向する。該ノズルは流入口653に向かってガスを噴出する。スロート部651は、ノズルから噴出されたガスと、ガスの噴出により引き込まれる筐体2内の空気を管内で混合し、燃焼部652に供給する。

【0033】

右縁部62は、フード本体部61の右端部から右方向に向かって略水平に延設され、平面視前後方向に延びる略帯状に形成されている。右縁部62の前後方向の略中央部には、円形状の固定孔621が設けられている。右縁部62は、ユニット本体部50の右壁部51の上面部511に対し、ダクト部80の上側固定部86を介して配置される。さらに、右縁部62に設けられた固定孔621を、上面部511に設けられた固定孔512Cに位置決めした後で、ネジ91を上方から締結する。これにより、ユニット本体部50の右壁部51の上面部511に対し、右縁部62が固定される。

40

【0034】

左縁部63は、フード本体部61の左端部から左方向に向かって略水平に延設され、平面視前後方向に延びる略帯状に形成されている。左縁部63前後方向の略中央部には、固定孔631が設けられている。左縁部63は、ユニット本体部50の左壁部52の上面部521に対し、ダクト部80の上側固定部86を介して配置される。さらに、左縁部63に

50

設けられた固定孔 6 3 1 を、上面部 5 2 1 に設けられた固定孔 5 2 2 C に位置決めした後で、ネジ 9 2 を上方から締結する。これにより、ユニット本体部 5 0 の左壁部 5 2 の上面部 5 2 1 に対し、左縁部 6 3 が固定される。

【0035】

さらに、左縁部 6 3 の上面の後端側には、熱電対 6 7 と点火電極 6 8 が固定部材 6 9 によって固定されている。熱電対 6 7 は前側、点火電極 6 8 は後側に配置されている（図 2 参照）。熱電対 6 7 と点火電極 6 8 の夫々の先端部は、グリルバーナ 6 5 の燃焼部 6 5 2 に隣接する位置に突出するように配置されている（図 2 参照）。点火電極 6 8 は、ツマミ 1 2 の押し回し操作に基づいて点火スパークを発生させる。それ故、スロート部 6 5 1 から燃焼部 6 5 2 の各炎孔部に供給されたガスは、グリル庫 5 0 0 内で燃焼する。熱電対 6 7 は、燃焼部 6 5 2 における失火を検出する。

10

【0036】

上縁部 6 4 は、フード本体部 6 1 の前端部から垂直上方に屈曲して設けられ、面方向が前後方向に向く正面視左右方向に延びる略矩形の板状に形成されている。上縁部 6 4 の右端側の上部には、左右方向に延びるスリット 6 4 1 が設けられている。上縁部 6 4 の左端側の上部にも、左右方向に延びるスリット 6 4 2 が設けられている。スリット 6 4 1、6 4 2 は、前板部 2 4 の開口部 2 5 の上縁部に設けられた左右一对の係止爪（図示略）に係止される。

【0037】

排気筒 6 6 は、グリルフード 6 0 の後部に設けられている。排気筒 6 6 は筒状に形成され、下側から上側に向けて設けられている。排気筒 6 6 の上端部には、平面視左右方向に長い略矩形状の開口部 6 6 1 が設けられている。開口部 6 6 1 は、天板 3 の後部に設けられた排気口部 9 の直下に配置される。グリル庫 5 0 0 内の燃焼により生じた燃焼ガスは、後方に向かって流れ、排気筒 6 6 を上方に流れる（図 2 中二点鎖線の矢印参照）。排気筒 6 6 は、燃焼ガスを天板 3 の排気口部 9 に導く。

20

【0038】

排気筒 6 6 の開口部 6 6 1 の内側には、フレームトラップ 1 7 が取付具（図示略）によって取り付けられている。フレームトラップ 1 7 は、略直方体の板状に構成された消炎部材であり、例えばステンレス等からなるラス網等の 2 枚の多孔板の両端を曲げ加工し、それを上下方向に向かい合わせて直方体の筒状に形成したものである。万が一、受皿 4 に溜まった油や被調理物から火炎が生じたとしても、その火炎は、排気筒 6 6 の筒上方上流側に位置する下側の多孔板に接触して冷却される。さらに、各多孔板間には、燃焼ガスや被調理物から生じた炭酸ガスが滞留して酸素濃度が希薄になるため、火炎への酸素供給が滞る。こうした冷却効果及び酸欠効果により、フレームトラップ 1 7 が排気筒 6 6 内の内側にまで延びる火炎を消炎するので、天板 3 の排気口部 9（図 1、図 2 参照）から火炎が溢れ出すのを防止できる。

30

【0039】

さらに、排気筒 6 6 の上端部には、略杵状の還流防止部材 9 0 が固定されている。還流防止部材 9 0 は、開口部 6 6 1 の前側縁部、右側縁部、左側縁部に沿って配置され、開口部 6 6 1 と、グリルバーナ 6 5 のスロート部 6 5 1 の流入口 6 5 5 の間において、天板 3 の下面との間に生じる隙間を閉塞する。還流防止部材 9 0 は、排気筒 6 6 の開口部 6 6 1 から流れる燃焼ガスが、スロート部 6 5 1 付近に引き込まれて、グリルバーナ 6 5 及び排気筒 6 6 内を還流するのを防止する。

40

【0040】

図 4 を参照し、遮熱板 7 0 の構造を説明する。遮熱板 7 0 は、金属板で構成され、平面視略矩形状に形成されている。遮熱板 7 0 は、本体部 7 1、右側固定部 7 2、左側固定部 7 3 等を備え、グリルフード 6 0 を上方から覆うことができる程度の大きさを備える。本体部 7 1 は、正面視下側が開口する略コの字型で、且つ平面視略矩形状に形成されている。右側固定部 7 2 は、本体部 7 1 の右側の下方に延びる下端部から右側方に突出し、平面視前後方向に延びる略帯状に形成されている。右側固定部 7 2 の長手方向略中央部には、

50

固定孔 7 2 1 が設けられている。右側固定部 7 2 は、グリルフード 6 0 の右縁部 6 2 の上面に当接し、固定孔 7 2 1 が右縁部 6 2 に設けられた固定孔 6 2 1 に位置決めされてネジ 9 1 で固定される。これにより、右側固定部 7 2 が、グリルフード 6 0 の右縁部 6 2 の上面に固定される。

【0041】

左側固定部 7 3 は、本体部 7 1 の左側の下方に延びる下端部から左側方に突出し、平面視前後方向に延びる略帯状に形成されている。左側固定部 7 3 の長手方向略中央部にも、固定孔（図示略）が設けられている。左側固定部 7 3 は、グリルフード 6 0 の左縁部 6 3 の上面に当接し、固定孔が左縁部 6 3 に設けられた固定孔 6 3 1 に位置決めされてネジ 9 2 で固定される。これにより、左側固定部 7 3 が、グリルフード 6 0 の左縁部 6 3 の上面に固定される。

10

【0042】

図 6～図 9 を参照し、ダクト部 8 0 の構造を具体的に説明する。ユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 及び左壁部 5 2 に取り付けられる二つのダクト部 8 0 は、互いに同一部品である。本実施形態は、説明の便宜上、右壁部 5 1 に取り付けられるダクト部 8 0 の向きを基準にして説明する。

【0043】

ダクト部 8 0 は、例えば金属板を折り曲げて形成され、縦壁部 8 1、第一支持部 8 2、第一当接部 8 3、第二支持部 8 4、第二当接部 8 5、上側固定部 8 6 等を備える。縦壁部 8 1 は、上下方向に起立した状態で、右側面視前後方向に長い略矩形状に形成されている。縦壁部 8 1 の下端部 8 1 2 は、前後方向に略直線状に延びている。その下端部 8 1 2 における前側の略 1/3 の部位には、上方に折り返された折り返し部 8 1 3 が設けられている。下端部 8 1 2 における後ろ側の略 1/3 の部位にも、上方に折り返された折り返し部 8 1 4 が設けられている。下端部 8 1 2 における左右方向の略中央部には、切欠き部 8 1 5 が設けられている。切欠き部 8 1 5 は、上方に向かって略円弧状に切り欠いて形成されている。

20

【0044】

第一支持部 8 2 は、縦壁部 8 1 の前端部から右壁部 5 1 の外面側（左方）に屈曲して延び、正面視上下方向に長い略矩形状に形成されている。第一当接部 8 3 は、第一支持部 8 2 の前端部から前方に延び、右側面視上下方向に長い略矩形状に形成されている。第一当接部 8 3 は、ユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 の外面に当接する部位である。第二支持部 8 4 は、縦壁部 8 1 の後端部から右壁部 5 1 の外面側（左方）に屈曲して延び、背面視上下方向に長い略矩形状に形成されている。第二当接部 8 5 は、第一支持部 8 2 の後端部から後方に延び、右側面視上下方向に長い略矩形状に形成されている。第二当接部 8 5 も、ユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 の外面に当接する部位である。

30

【0045】

上側固定部 8 6 は、縦壁部 8 1 の上端部 8 1 1 から左側方に延び、平面視前後方向に延びる略帯状に形成されている（図 8 参照）。上側固定部 8 6 の前側と後ろ側には、上下方向に貫通する平面視略矩形状の貫通孔 8 6 1、8 6 2 が設けられている。前側に位置する貫通孔 8 6 1 の内縁部のうち後ろ側の縁部には、下方に突出する差込片 8 6 1 A（図 7、図 8 参照）が設けられている。後ろ側に位置する貫通孔 8 6 2 の内縁部のうち前側の縁部には、下方に突出する差込片 8 6 2 A（図 8 参照）が設けられている。貫通孔 8 6 1 と 8 6 2 の間には、前後一対の円形状の固定孔 8 6 3、8 6 4 が設けられている。後ろ側に位置する固定孔 8 6 4 は、ダクト部 8 0 をユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 に取り付ける際に使用される。前側に位置する固定孔 8 6 3 は、ダクト部 8 0 をユニット本体部 5 0 の左壁部 5 2 に取り付ける際に使用される。即ち、上側固定部 8 6 は、長手方向において中央部を基準に対称形状になっている。それ故、本実施形態は、ダクト部 8 0 を右壁部 5 1 及び左壁部 5 2 の何れにも取り付けることができる。

40

【0046】

図 4、図 5、図 8 を参照し、ユニット本体部 5 0 へのダクト部 8 0 の取付方法の一例を

50

説明する。右壁部 5 1 にダクト部 8 0 を取り付ける場合、先ず、ダクト部 8 0 の上側固定部 8 6 を、右壁部 5 1 の上面部 5 1 1 のうち載置面 5 1 2 に載置する。このとき、上側固定部 8 6 に設けられた差込片 8 6 1 A, 8 6 2 A を、載置面 5 1 2 に設けられた貫通孔 5 1 2 A, 5 1 2 B に対して上方から差し込む。これにより、上側固定部 8 6 は、載置面 5 1 2 に位置決めされる。そして、載置面 5 1 2 の固定孔 5 1 2 C に対し、上側固定部 8 6 の固定孔 8 6 4 が配置される。固定孔 8 6 4 と固定孔 5 1 2 C に対し、ネジ 9 1 を締結する（図 4 参照）。よって、上側固定部 8 6 は、載置面 5 1 2 に固定される。ダクト部 8 0 の第一当接部 8 3 及び第二当接部 8 5 は、右壁部 5 1 の外面に当接させる。第一当接部 8 3 は前側、第二当接部 8 5 は後ろ側に配置される。これにより、ダクト部 8 0 の右壁部 5 1 への取り付けが完了する。右壁部 5 1 に取り付けられた状態で、ダクト部 8 0 の縦壁部 8 1 の下端部と右壁部 5 1 との間には、底面視略矩形状の開口部 8 1 8 （図 7 参照）が形成される。これにより、燃焼用二次空気は、ダクト部 8 0 の下方から開口部 8 1 8 を介して内部に流入し、右壁部 5 1 に設けられた 3 つの空気孔 5 1 5 を介してグリル庫 5 0 0 内にスムーズに取り込まれる。

10

【0047】

他方、左壁部 5 2 にダクト部 8 0 を取り付ける場合、右壁部 5 1 に取り付けられたダクト部 8 0 の向きに対して、ダクト部 8 0 の前後方向の向きを逆にする。そして、上記と同様に、先ず、ダクト部 8 0 の上側固定部 8 6 を、左壁部 5 2 の上面部 5 2 1 のうち載置面 5 2 2 に載置する。このとき、上側固定部 8 6 に設けられた差込片 8 6 1 A, 8 6 2 A を、載置面 5 2 2 に設けられた貫通孔 5 2 2 A, 5 2 2 B に対して上方から差し込む。これにより、上側固定部 8 6 は、載置面 5 2 2 に位置決めされる。そして、載置面 5 2 2 の固定孔 5 2 2 C に対し、上側固定部 8 6 の固定孔 8 6 3 が配置される。固定孔 8 6 3 と固定孔 5 2 2 C に対し、ネジ 9 2 を締結する（図 4 参照）。よって、上側固定部 8 6 は、載置面 5 2 2 に固定される。ダクト部 8 0 の第一当接部 8 3 及び第二当接部 8 5 は、左壁部 5 2 の外面に当接させる。右壁部 5 1 に取り付けられたダクト部 8 0 とは逆に、第一当接部 8 3 は後ろ側、第二当接部 8 5 は前側に配置される。これにより、ダクト部 8 0 の左壁部 5 2 への取り付けが完了する。左壁部 5 2 に取り付けられた状態で、ダクト部 8 0 の縦壁部 8 1 の下端部と左壁部 5 2 との間には、底面視略矩形状の開口部（図示略）が形成される。これにより、燃焼用二次空気は、ダクト部 8 0 の下方から開口部を介して内部に流入し、左壁部 5 2 に設けられた 3 つの空気孔 5 2 5 を介してグリル庫 5 0 0 内にスムーズに取り込まれる。

20

30

【0048】

なお、図 7 に示すように、本実施形態のダクト部 8 0 では、上側固定部 8 6 を水平ではなく、水平に対して左端側（先端側）をやや下げている。そのような上側固定部 8 6 を、ユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 の載置面 5 1 2 に載置し、ネジ 9 1 で固定することによって、ダクト部 8 0 全体が上側固定部 8 6 を中心に正面視時計回りに移動し、右壁部 5 1 の外面に押し当てられる。これにより、ダクト部 8 0 の第一当接部 8 3、及び第二当接部 8 5 を、右壁部 5 1 の外面に密着させることができる。

【0049】

図 2, 図 9 を参照し、筐体 2 内におけるガス配管 1 0 1 の配設構造を説明する。図 9 に示すように、筐体 2 内には、ガス配管 1 0 1 が配設されている。ガス配管 1 0 1 は、ガス量調節装置 1 8, 1 9、及びグリル用ガス量調節装置に対してガスを供給する管である。筐体 2 の後板部 2 3 （図 2 参照）の左下角部近傍には、円形状の貫通孔（図示略）が設けられている。ガス配管 1 0 1 の上流側の端部は、筐体 2 の内側から貫通孔に挿入され、筐体 2 の外側に突き出している（図 2 参照）。そのガス配管 1 0 1 の上流側の端部には、管状の接続具 1 0 0 が設けられている。接続具 1 0 0 には、図示しないガス元栓から延びるガスホースが接続される。これにより、ガスホースから接続具 1 0 0 を介して、ガス配管 1 0 1 にガスが供給される。

40

【0050】

ガス配管 1 0 1 は、貫通孔から前方に延び、前板部 2 4 （図 3 参照）の近傍で右方に略

50

直角に屈曲した後、グリル庫 500 の下側を潜り抜けるようにして右方に延び、右壁部 51（図 3 参照）の近傍まで配設されている。ガス配管 101 の下流側端部は、閉塞されている。ガス配管 101 の下流側端部の近傍であって、ツマミ 11, 12 に夫々対応する位置には、二つのガス流通孔（図示略）が設けられている。これら二つのガス流通孔には、固定部材 105, 106 が固定されている。

【0051】

ツマミ 11 に対応する固定部材 105 には、ガス量調節装置 18（図 3 参照）の下部が固定される。ガス量調節装置 18 の下部に設けられたガス入口は、固定部材 105 を介してガス流通孔と連通する。それ故、ガス配管 101 を流れるガスの一部は、ガス流通孔を介して、ガス量調節装置 18 のガス入口に流入する。ツマミ 12 に対応する固定部材 106 には、グリル用ガス量調節装置の下部が固定される。グリル用ガス量調節装置の下部に設けられたガス入口は、固定部材 106 を介してガス流通孔と連通する。それ故、ガス配管 101 を流れるガスの一部は、ガス流通孔を介して、グリル用ガス量調節装置のガス入口に流入する。

【0052】

また、ガス配管 101 のうちツマミ 13 に対応する位置にも、ガス流通孔（図示略）が設けられている。このガス流通孔にも図示しない固定部材が固定され、該固定部材に対してガス量調節装置 19（図 3 参照）の下部が固定される。ガス量調節装置 19 の下部に設けられたガス入口は、固定部材を介してガス流通孔と連通する。それ故、ガス配管 101 を流れるガスの一部は、ガス流通孔を介して、ガス量調節装置 19 のガス入口に流入する。このように、ガス配管 101 は、ガス量調節装置 18, 19、及びグリル用ガス量調節装置に直接的に接続されている。よって、ガス量調節装置 18, 19、及びグリル用ガス量調節装置を通じて、右コンロバーナ 5、左コンロバーナ 6 及びグリルバーナ 65 に対して、ガスが供給される。

【0053】

図 6, 図 9 を参照し、バーナ開口部 201 から筐体 2 内に侵入した煮汁が、遮熱板 70 の上面に落下した場合の煮汁の径路について説明する。例えば、天板 3 のバーナ開口部 201 から筐体 2 内に煮汁が侵入する場合がある。その煮汁が遮熱板 70 の上面に落下すると、その上面を例えば右方又は左方に流れて、ダクト部 80 の縦壁部 81 の外面を伝って下方に流れ落ちる場合がある。上記の通り、筐体 2 内において、ガス配管 101 の一部は、グリル庫 500 の下側を潜り抜けるようにして左右方向に延びている。つまり、ガス配管 101 は、ダクト部 80 の直下に配設された状態である。ここで、ダクト部 80 の縦壁部 81 の下端部 812 において、ガス配管 101 が配設された配設領域 P1（図 6 参照）と上下方向に重なる部分には、折り返し部 813 が配置されている。さらに、ガス配管 101 が配設されていない非配設領域 P2（図 6 参照）と上下方向に重なる部分には、切欠き部 815 が配置されている。

【0054】

このような位置関係では、ガス配管 101 の直上において、縦壁部 81 の外面を伝って流れ落ちる煮汁は、縦壁部 81 の下端部 812 において、折り返し部 813 により受け止められる。これにより、ガス配管 101 上に煮汁が直接かかり、腐食等が生じるのを防止できる。そして、折り返し部 813 により受け止められる煮汁が多く、仮にオーバーフローした場合でも、その煮汁は折り返し部 813 から下端部 812 を伝い、円弧状に切り欠いて形成された切欠き部 815 に徐々に溜まる。切欠き部 815 に一定以上の煮汁が溜まると、その重みによって煮汁の表面張力が壊れるので、切欠き部 815 において煮汁が滴下される。このように、切欠き部 815 は、下端部 812 を伝った煮汁を、非配設領域 P2 に積極的に滴下させるので、ガス配管 101 に煮汁が直接かかるのを防止できる。

【0055】

他方、左壁部 52 に取り付けられたダクト部 80 においては、右壁部 51 に取り付けられたダクト部 80 と前後方向の向きが逆になる。それ故、ダクト部 80 の縦壁部 81 の下端部 812 において、配設領域 P1 と上下方向に重なる部分には、折り返し部 814 が配

置され、非配設領域 P 2 と上下方向に重なる部分には、切欠き部 8 1 5 が配置される。これにより、ダクト部 8 0 の縦壁部 8 1 の外面を、ガス配管 1 0 1 に向けて伝わり落ちる煮汁は、縦壁部 8 1 の下端部 8 1 2 において、折り返し部 8 1 4 により受け止められる。そして、折り返し部 8 1 4 により受け止められる煮汁が多く、仮にオーバーフローした場合でも、その煮汁は折り返し部 8 1 4 から下端部 8 1 2 を伝い、切欠き部 8 1 5 において滴下される。左壁部 5 2 に取り付けられたダクト部 8 0 においても、切欠き部 8 1 5 は、下端部 8 1 2 を伝った煮汁を、非配設領域 P 2 に積極的に滴下させるので、ガス配管 1 0 1 に煮汁が直接かかるのを防止できる。なお、天板 3 のバーナ開口部 2 0 2 から筐体 2 内に煮汁が侵入した場合も同様である。

【0056】

また、図 7 に示すように、ダクト部 8 0 において、上側固定部 8 6 と、第一支持部 8 2 の上端部との間には、所定の隙間 8 7 が形成されている。ダクト部 8 0 は、その隙間 8 7 に、右壁部 5 1 の上面部 5 1 1 を差し込み、上側固定部 8 6 の下面を上面部 5 1 1 の載置面 5 1 2 に載置した状態で、ネジ 9 1 を固定している。これにより、図 9 に示すように、ダクト部 8 0 の第一支持部 8 2、第一当接部 8 3、第二支持部 8 4、及び第二当接部 8 5 を、上面部 5 1 1 の下側に配置できるので、縦壁部 8 1 の位置を、上面部 5 1 1 の右端部の位置に揃えることができる。その結果、ダクト部 8 0 は、ユニット本体部 5 0 から右側方に張り出さないで、遮熱板 6 0 の右側固定部 7 2 の夫々の右端部と、縦壁部 8 1 との間に大きな段差を生じない。よって、遮熱板 7 0 の上面に落下して右側方に流動した煮汁は、遮熱板 6 0 の右側固定部 7 2 の右端部から、そのまま縦壁部 8 1 の外面を伝って流れ落ちることができる。なお、左壁部 5 2 に取り付けられるダクト部 8 0 においても同様である。

【0057】

以上説明において、ユニット本体部 5 0 の右壁部 5 1 及び左壁部 5 2 が本発明の「左右一対の側壁」の一例である。図 9 に示すガス配管 1 0 1 が本発明の「ガス配管」の一例である。

【0058】

以上説明したように、本実施形態のコンロ 1 は、筐体 2、天板 3、及び右コンロバーナ 5 等を備える。右コンロバーナ 5 のバーナ本体部 1 5 1 は、天板 3 に設けられたバーナ開口部 2 0 1 を上下に挿通するように設けられている。筐体 2 内には、グリル庫 5 0 0 が設置されている。筐体 2 内において、ガス配管 1 0 1 が配設される領域を配設領域 P 1、ガス配管 1 0 1 が配設されない領域を非配設領域 P 2 とする。グリル庫 5 0 0 の左右の両側部（右壁部 5 1 及び左壁部 5 2）には、ダクト部 8 0 が夫々設けられている。ダクト部 8 0 には、上下方向に延びる縦壁部 8 1 が設けられている。縦壁部 8 1 の直線状に前後方向に延びる下端部 8 1 2 において、配設領域 P 1 と上下に重なる部分には、上方に折り返された折り返し部 8 1 3 が設けられている。非配設領域 P 2 と上下に重なる部分には、切欠き部 8 1 5 が設けられている。

【0059】

このような位置関係において、天板 3 のバーナ開口部 2 0 1 を通じて筐体 2 内に侵入した煮汁のうち、グリル庫 5 0 0 の側部方向に流動した煮汁は、ダクト部 8 0 の縦壁部 8 1 を伝って下方に流れ落ちる。ここで、流れ落ちた煮汁のうちガス配管 1 0 1 に向けて伝わり落ちる煮汁は、縦壁部 8 1 の下端部 8 1 2 において、配設領域と上下に重なる位置に設けられた折り返し部 8 1 3 により受け止められる。これにより、ガス配管 1 0 1 上に煮汁が直接かかり腐食等が生じるのを防止できる。また、縦壁部 8 1 において、非配設領域 P 2 と上下に重なる位置に切欠き部 8 1 5 を設けることにより、煮汁を非配設領域 P 2 に積極的に滴下させることができる。これにより、煮汁が折り返し部 8 1 3 からオーバーフローしてガス配管 1 0 1 にかかるのを防止できる。

【0060】

また、上記実施形態において、グリル庫 5 0 0 の右壁部 5 1 には、燃焼用二次空気をグリル庫 5 0 0 内に取り入れる為の 3 つの空気孔 5 1 5 が設けられている。さらに、右壁部

５１には、ダクト部８０が取り付けられている。ダクト部８０は、右壁部５１に設けられた３つの空気孔５１５を外側から覆うと共に、燃焼用二次空気を取り入れる開口部８１８を下側に形成する。ダクト部８０は、開口部８１８から取り入れた燃焼用二次空気を空気孔５１５に案内する。ダクト部８０の縦壁部８１は、右壁部５１に対して隙間を空けて対向する位置に配置されている。切欠き部８１５は、その縦壁部８１の下端部８１２の長手方向の中央部に設けられている。そして、その切欠き部８１５を挟む前後の位置に、折り返し部８１３，８１４が設けられている。これにより、ダクト部８０の縦壁部８１の下端部８１２は、中央部において対称形状にできるので、グリル庫５００の右壁部５１及び左壁部５２に夫々設けられる二つのダクト部８０を共通化できる。

【００６１】

なお、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、種々の変更が可能である。上記実施形態のコンロ１はグリル付きテーブルコンロであるが、ビルトインタイプのコンロであってもよい。また、コンロ１は、右コンロバーナ５と左コンロバーナ６の２つのコンロバーナを備えるが、コンロバーナの数２つに限らず、１つでもよく、３つ以上であってもよい。

【００６２】

また、上記実施形態は、右壁部５１及び左壁部５２に夫々取り付けられるダクト部８０を共通化する為に、縦壁部８１の下端部８１２の長手方向の中央部に切欠き部８１５を設け、その切欠き部８１５を挟む前後の位置に、折り返し部８１３，８１４を設けているが、部品共通化を考慮しないならば、切欠き部８１５、折り返し部８１３，８１４の夫々の位置は、これに限定されない。また、切欠き部８１５は一つに限らず、複数であってもよい。また、折り返し部は、ガス配管の配設領域に合わせて、一つでもよく、二つ以上であってもよい。また、右壁部５１用のダクト部８０と、左壁部５２用のダクト部８０とで、切欠き部、折り返し部の個数、位置が異なってもよい。

【００６３】

また、上記実施形態では、ダクト部８０の縦壁部８１の下端部８１２に、折り返し部８１３，８１４、及び切欠き部８１５を設けているが、ダクト部８０を備えないグリル庫５００の場合、右壁部５１及び左壁部５２の夫々の下端部に、折り返し部、及び切欠き部を設けてもよい。

【００６４】

また、上記実施形態のダクト部８０の縦壁部８１の下端部８１２には、非配設領域Ｐ２に煮汁を滴下させる為に、切欠き部８１５を設けているが、切欠き部８１５の形状については、円弧状以外の形状でもよく、例えば、Ｕ字状、Ｖ字状等であってもよい。また、切欠き部８１５に代えて、下方に突出する突起部のようなものを設けてもよい。例えば、図１０に示すダクト部８０１は、上記実施形態のダクト部８０の変形例である。縦壁部８１の下端部８１２の長手方向の中央部には、下方に略Ｖ字状に突出する突出部８１６が設けられている。このようなダクト部８０１においても、縦壁部８１を流れ落ちて、折り返し部８１３により受け止められる煮汁がオーバーフローした場合、その煮汁は折り返し部８１３から下端部８１２を伝い、突出部８１６に流動する。そして、煮汁の表面張力が突出部８１６の先端によって壊れるので、突出部８１６において煮汁が滴下される。このような突出部８１６によっても、下端部８１２を伝った煮汁を、非配設領域Ｐ２に積極的に滴下させることができる。

【００６５】

また、上記実施形態において、ユニット本体部５０、グリルフード、遮熱板等に設けられる固定孔の数、位置等については、自由に変更可能である。

【符号の説明】

【００６６】

- １ コンロ
- ２ 筐体
- ３ 天板

10

20

30

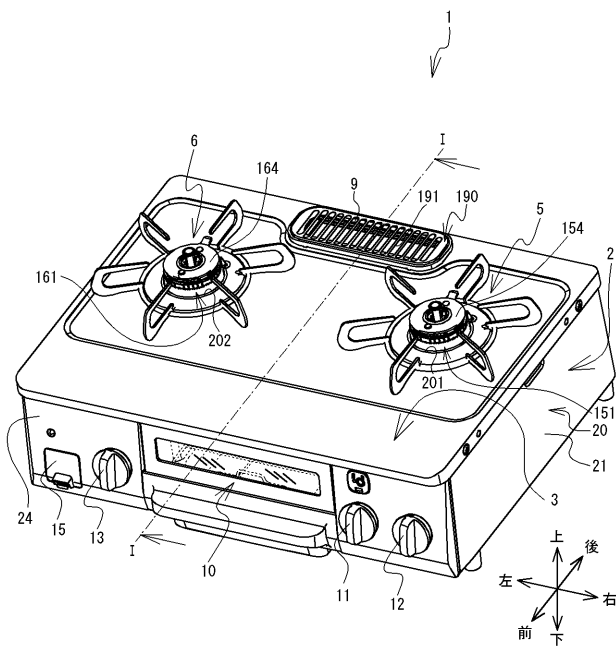
40

50

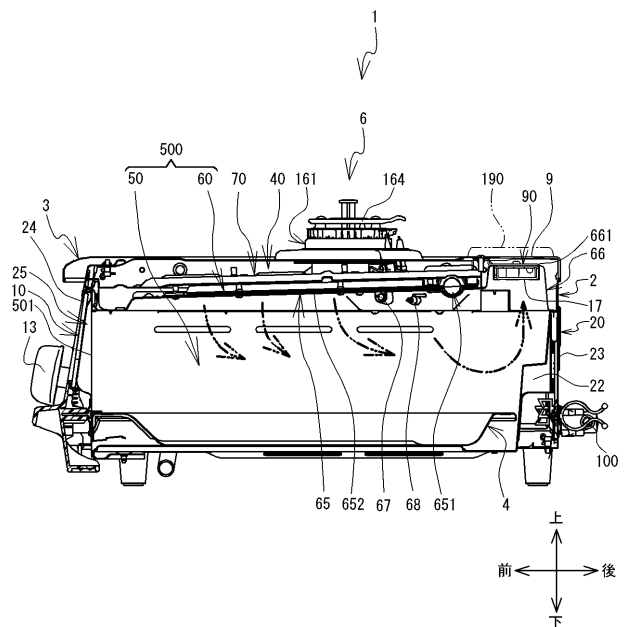
- 5 右コンロバーナ
- 6 左コンロバーナ
- 5 1 右壁部
- 5 2 左壁部
- 8 0 ダクト部
- 8 1 縦壁部
- 1 0 1 ガス配管
- 1 5 1, 1 6 2 バーナ本体部
- 2 0 1, 2 0 2 バーナ開口部
- 5 0 0 グリル庫
- 8 1 2 下端部
- 8 1 3, 8 1 4 折り返し部
- 8 1 5 切欠き部
- 8 1 8 開口部
- P 1 配設領域
- P 2 非配設領域

10

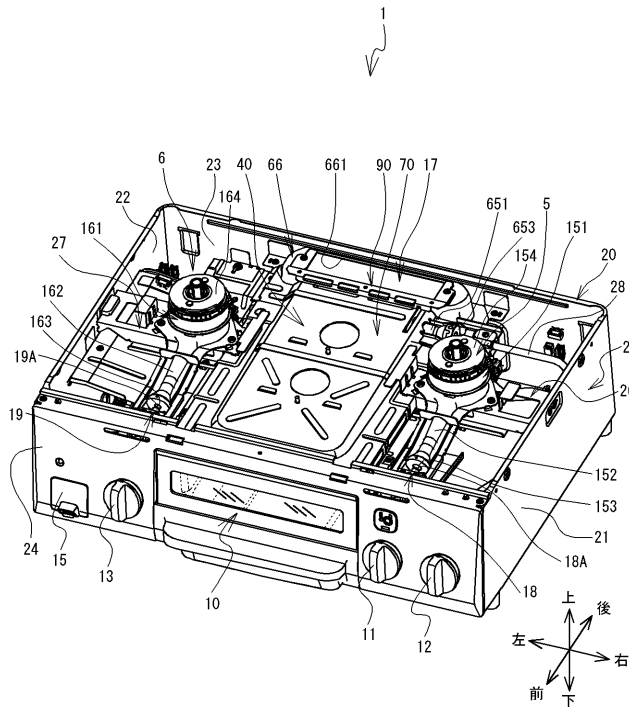
【図 1】



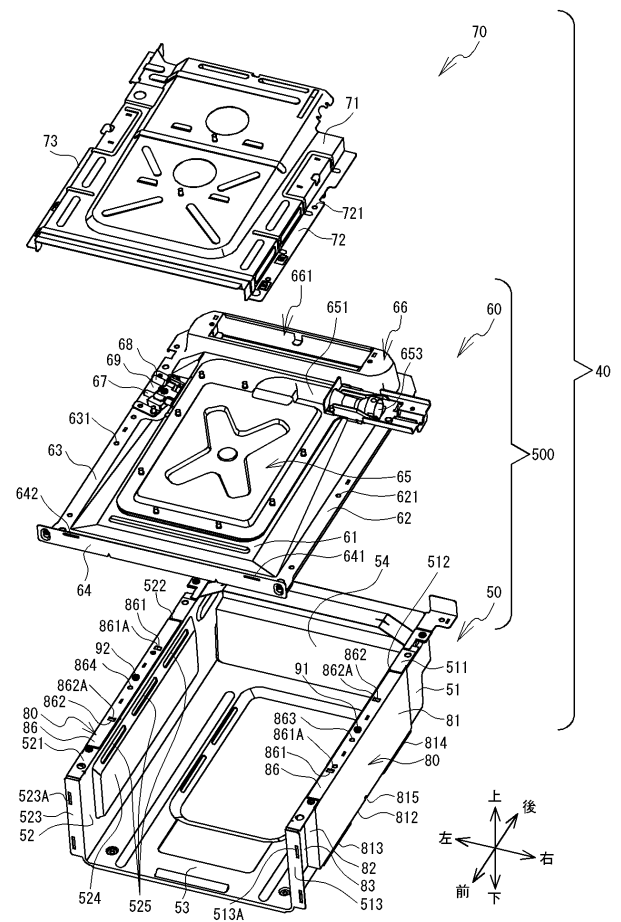
【図 2】



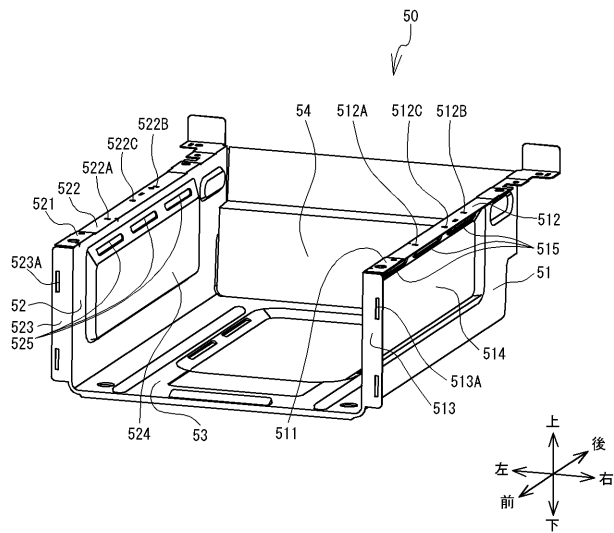
【図 3】



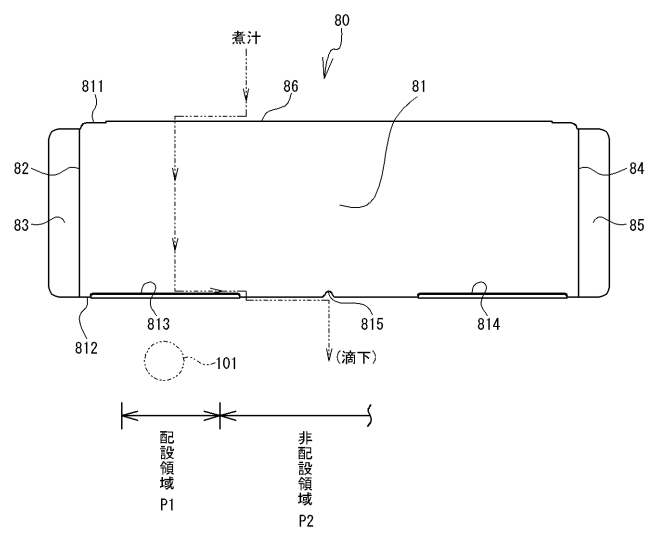
【図 4】



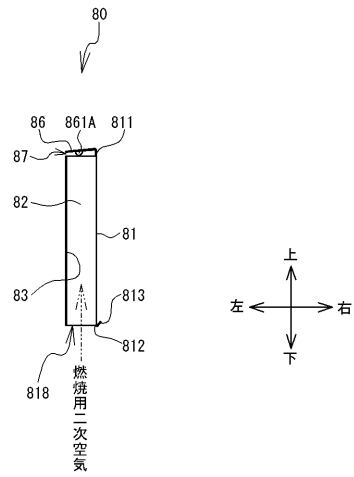
【図 5】



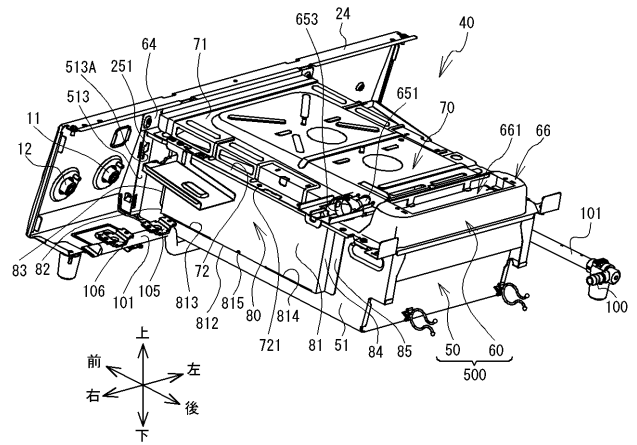
【図 6】



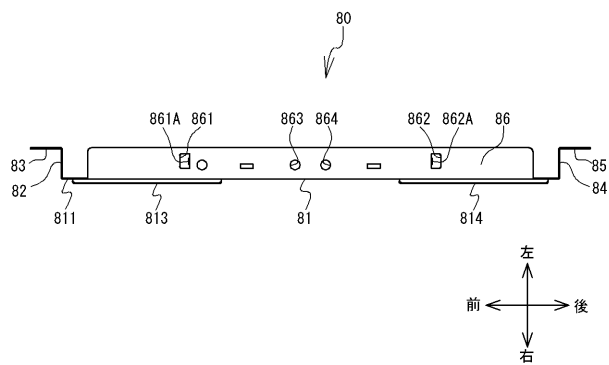
【図 7】



【図 9】



【図 8】



【図 10】

